

高台移転と人工高台構想は

各政省令を注視し取り組む



議員 徳昭 亀沢

ているかを問う。

答 松本 情報防災課長

昨年南海トラフ大震災の予想が公表されて以降、高台移転に多くの住民から質問、要望があつた出口地区を対象に10月から、地区代表者、町、県等が地区の現状、移転に関する補助制度や負担額などの情報を共有し、理解を深めるため勉強会を開催している。事前復興目的の高台移転は全国的に事例がないので、本勉強会は今後高台移転する場合の具体的課題の洗い出しが出来るのではと考えている。

問 南海トラフ巨大地震対策特別措置法、国土強靱化基本法の成立を受け、高台移転に対する関心が高まっている。高台移転は、地震、特に津波対策としてベストであることは周知のところである。高台移転は、震災前過疎を防止するためにも重要な取り組みだが、高台移転が何らかの理由で出来ない人たちに町としてどの様に対処するのか。また金子繁昌県議が提唱している人工高台「命の丘」構想について町としてどの様に考え

強靱化基本法の成立を受け、

これから出される各政省令等に注視して取り組む。

また、「命の丘」構想について県議会では効果的であるとの見解と、入野松原の暴風防潮の機能低下が懸念されるという二つの側面で議論されている。町としては、入野松原周辺の人工高台「命の丘」整備については、土佐西南大規模公園利用者の安全確保の視点からも、今後黒潮町津波避難計画の中で位置づけを明確にしていく。

問 津波を抑え込むのではなく、津波による浸水は当然あるものとして、その浸水時間をいかに遅らせるかによって、多くの命が救われる。蛸瀬川左岸堤の高さは、入野漁港の防波堤より低い状況でないかと思われる。この蛸瀬川左岸堤をかさ上げと補強する事によって、万行、下田の口への津波浸水時間を遅らせる事ができ、より多くの命が救われると思う。この蛸瀬川左岸堤のかさ上げ、補強について町としてどの様に対処して

いるかを問う。

答 森田 まちづくり課長

蛸瀬川左岸堤は昭和20年代前半に築かれた高さの低い軽石積みのものである。左岸堤のかさ上げ補強については、津波による浸水時間を遅らせ周辺住民の避難時間確保のため重要である。毎年、県及び県議会へ強く要望をしている。現在、県では県管理河川において地震津波高潮対策の調査

を実施しており、蛸瀬川については重要河川と位置付け、昨年度基礎調査を実施した。津波からの避難時間の確保や背後地の重要性など他の河川と調整しながら事業化を検討すると聞いている。

町としても土佐西南大規模公園利用者や蛸瀬川周辺住民の多くの命を守るために、早期の事業化に向けて関係機関に強く要望していく。



蛸瀬川左岸堤の様子